

ひこね市文化プラザ ☎26-8601 FAX 26-8602  
5月の休館日：7水・12月・19月・26月

- 5月3日(土) 13:30～  
**お楽しみコンサート「こどもの日」**  
☆美しい音楽の魅力をお届けします！  
☆出演：小林由味(ソプラノ)、安居暢子(ピアノ)  
【鑑賞無料】
- 5月15日(木) 19:00～  
**井上陽水コンサート2008**  
指定 8,400円 【好評発売中・残席わずか】  
※売完の際はご了承ください。
- 6月15日(日) 13:00～/16:00～ **2回公演**  
こどもちゃれんじ ファミリーシアター  
**しまじろうと ゆうえんちへ いこう！**  
指定 1,500円(3歳以上) 【好評発売中・残席わずか】  
※売完の際はご了承ください。

**ひこね市民大学講座**

第1講 7月12日(出) 14:00～  
「言葉のチカラ～私の選んだ道～」 市原悦子さん(俳優)

第2講 9月7日(日) 14:00～  
「日本の政治経済のゆくえ」 宮崎哲弥さん(コメンテーター)

第3講 10月4日(出) 14:00～  
「環境と健康」 北野大さん(工学博士・明治大学教授)

☆料金：全席自由 4,000円【好評発売中】  
※1講座だけの購入はできません。  
※未就学児の入場はお断りします。  
※要約筆記は、各講演日の10日前までに申し込んで下さい。

**みずほ文化センター**

8月2日(出) 15:00～  
**菅原洋一&英介 父と子のコンサート**  
☆地元特別出演：コールほなみ  
指揮：高木充江  
自由 3,000円(当日3,500円) 【5月11日(日)発売開始】

マーク：託児サービスがあります。(要予約)  
※公演日の1週間前までにご予約ください。  
マーク：公演終了後、彦根駅行き・南彦根駅行きの臨時バスの便があります。(有料)

チケット・入会のお申し込み、お問い合わせは  
**チケットセンター ☎27-5200 (9:00～19:00)**

市民体育センター ☎23-2293 FAX 23-2294  
5月の休館日：1木・7水・8木・9金・12月・13火・20火・27火

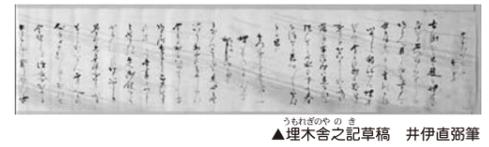
18日(日) 10:00～12:00 ※雨天中止  
**フレッシュスポーツデー ウォーキング**  
コース：佐和山周辺(市民体育センター玄関前に集合)  
申込方法：前日までに電話でお申込みください。  
参加費：小学生以上 1人200円(当日、受付でお支払いください。)

彦根城博物館 ☎22-6100 FAX 22-6520  
5月の休館日はありません。  
5月20日(火)～同22日(木)は展示替えのため、展示室を一部閉室しています。

開館時間 8:30～17:00(入館は16:30まで)

～5月20日(火)  
**「国宝・彦根屏風」**  
近世初期風俗画の傑作、国宝・彦根屏風を公開します。

5月23日(金)～6月24日(火)  
**直弼発見! 巻の1**  
**「井伊直弼 大老への道のり」**  
直弼愛用の品々や、心情を吐露した自筆の手紙により、その生い立ちから大老就任にいたるまでの軌跡を紹介します。

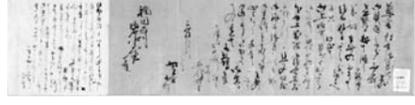


▲埋木舎之記草稿 井伊直弼筆

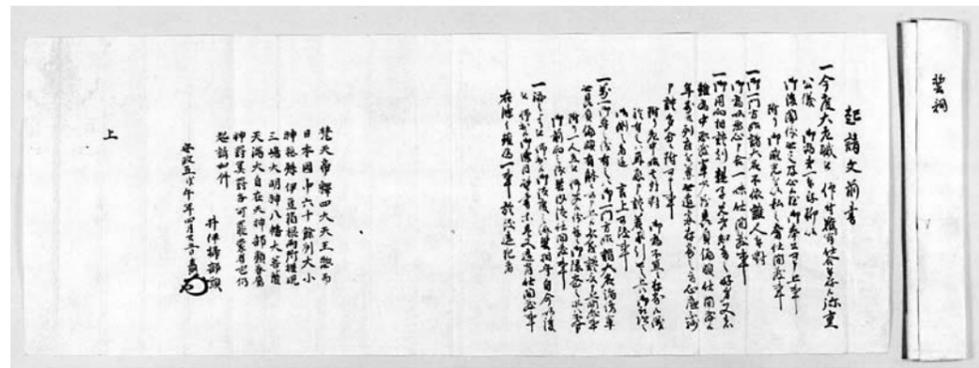
ギャラリートーク  
**「井伊直弼 大老への道のり」**  
5月24日(出) 14:00～15:00  
解説：本館学芸員 渡辺恒一(わたなべ こういち)  
※事前申し込みは不要です。当日、館内講堂にお集まりください。

**ほんものがとの会** - 常設展示の名品 -  
譜代大名筆頭・井伊家に伝来した大名道具を中心に、日本の美と歴史にせまります。  
「武器・武具」「能面・能装束」「茶道具」「湖東焼」「雅楽器」「調度」「絵画」「古文書」などの名品が次々と登場します。

5月21日(水)～6月23日(月)  
**直弼のころ**  
**福田寺撰専宛 井伊直弼書状**  
直弼と福田寺住職・撰専との、和歌など文学を通じた親交を示す手紙。



6月1日(日) 9:30～12:00 ※雨天中止  
**フェスタ・グラウンドゴルフ**  
みんなでグラウンド・ゴルフを楽しみましょう！  
会場 県立彦根総合運動場 多目的広場  
参加料 1人500円(当日、受付でお支払いください。)  
対象 小学生以上(家族での参加歓迎)  
定員 100人程度(先着順)  
申込方法 前日までに、市民体育センター窓口、電話、ファクスのいずれかで申し込んでください。



▲井伊直弼大老就任誓詞控

安政5年(1858)4月23日、井伊直弼は幕府大老となりました。直弼の大老就任は、幕府内でも何度か取りざたされ、彼自身も意識していました。実際の就任は、本人や彦根藩にとつても急な出来事でした。

4月22日の七つ半時(午後6時)、直弼に翌日の江戸城登城を命じる幕府老中奉書が、彦根藩江戸上屋敷に届けられました。登城の用向きが分からなかった井伊家では、急ぎ幕府の奥右筆に内々に問い合わせたところ、直弼に大老職が命じられるとのこと。井伊家では、直弼の娘弥千代と21日に婚姻した松平頼聡の婿入りの予定を断り、準備していた御殿の飾りが急遽片付けられました。翌朝、登城した直弼は、御座の間で將軍徳川家定から大老職就任を命じられました。直弼は一度は辞退しますが、將軍から再度の命がくだり、大老職に就きました。

直弼の大老就任のきっかけは、徳川一門の福井藩主松平慶永の大老就任が、將軍家定に伺われたことでした。これ

に難色を示した家定が、直弼の大老就任を望んだと伝えられます。当時、幕府では、日米修好通商条約の調印を政治課題とする一方、將軍の後継者選びという幕府政治の主導権争いが行われていました。直弼の大老就任は、譜代大名を中心とした勢力が、政治の主導権を握るために水面下で推し進めた人事でした。

大老就任から2日後の4月25日、直弼は將軍に誓詞を提出しました。彦根藩井伊家文書(重要文化財)には、この時の直弼自筆の誓詞の控えが伝えられています(写真)。誓詞は神に誓約をするもので、大老職に限らず、幕府の役職に就くときには、提出が義務づけられていました。誓詞控えは、同サイズ(縦36・0cm、横48・5cm)、同質の2枚の和紙が貼り継がれています。1枚は、幕府を第一に思い奉公することなど、具体的な誓約内容を記した前書。もう1枚は、神への誓約を記した本文で、裏には熊野権現のお札に押される印が押されています。包紙にもサイズ、紙質と

もに全く同じ紙が使われています。幕府に提出した正文も同じ紙が用いられたと思われます。かつ、正文には血判が押されました。

直弼は、將軍に1度大老職辞退を申し出ましたが、実は、22日の段階で、側近の宇津木景福に、「いかに粉骨砕身いたし候ても忠勤いたすべし」と大老職就任への意気込みを語っていました。あわただしい事の成り行きにもかかわらず、くせの強い筆跡を特徴とする直弼としては、端整に書かれた誓詞の文字。大役を引き受ける緊張のなか、一字一字に自らの思いをこめ、誓詞をしたためる直弼の姿が想像されます。この後、直弼は一気に時代を駆け抜けてゆくこととなります。

(彦根城博物館学芸員 渡辺恒一)

写真の史料は、シリーズ「直弼発見!」巻の1「井伊直弼 大老への道のり」(5月23日(金)～6月24日(火)・期間中無休)で展示します。

とまきの玉手箱

博物館からのメッセージ

